

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

神山中学校  
「学力向上実行プラン」

- ①わかる授業の創造
- ②主体的に学習に取り組む態度の育成

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な学力については、全国調査でも一定の成果が見られる。出された学習課題も概ねやり遂げられている。 ●既習事項の確認や反復練習が十分でないため、知識が定着していない生徒が少なくない。自主学習ノートの内容に個人差が大きい。	・自主的に家庭学習に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。	・研究授業を実施し「わかる授業」を目指す。 ・家庭学習の仕方を習得させる。 ・自主学習ノートに、テスト反省や、授業の復習を徹底的にさせる。 ・生徒会の『学力向上プロジェクト』を支援する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の授業や行事において、積極的に発言できている生徒が多い。 ○意見や考えを導こうと努力する生徒が多い。 ●様々な文章や資料から適切な情報を得て、自分の考えをまとめ論理的に説明することを苦手とする生徒が多い。	・根拠を明らかにして、自分の考えを書いたり説明したりできる。 ・情報を収集し、問題を解決する力を身につける。	・授業やテストでは、根拠を明らかにして表現する機会を意図的に設ける。 ・10分間作文を書かせ、発表会を開催する。 ・授業や行事などで意見を積極的に発言させる。 ・朝読書の時間を定着させる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○進んで発言する生徒が多い。ノーチャイム制をとるが、授業開始時には学習できる環境が整っている。 ●自分で計画を立てて勉強することを苦手とする生徒が多く、特にテスト前でも家庭学習が十分できていない生徒がいる。	・学習内容や学習態度の振り返りを自ら行い、その成果と課題を明らかにした上で、自主的に学習に取り組むことができる。	・自主学習ノートのコンテストを行う。 ・個々に学習目標設定をさせ、達成できるように支援する。 ・「テスト前計画表」の確認を行う。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

